Pick Up!

令和6年能登半島地震の被災地に対する支援活動を行っています

2024年1月1日に石川県能登半島で最大震度7の揺れを観測する地震が起きました。

2月28日までに241名の方が犠牲になり、7万7千を超える住宅に被害が出ました。

改めて、被災された皆さまならびにご家族の皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

私たちIVUSAは1月12日から毎週末ごとに富山県氷見市と石川県珠洲市に災害ボランティアを派遣し、炊き出しや足湯、家屋の片付けなどを行ってきました。また街頭で募金活動を実施し、お預かりした募金を石川県に義援金として送っています。

↓詳しくはIVUSAの公式blogをご覧ください。

https://blog.canpan.info/ivusa/category_4/1

復旧・復興にはまだまだ時間がかかり、多くの学生のチカラが必要とされています。

そして、日本で生きている以上、いつ・どこで災害に遭うか分かりません。災害に遭ったときに、自分がどう行動し、何ができるかを考える意味でも、ぜひ活動に参加しましょう！

災害救援に参加した学生の声

Voice

東京板橋クラブ１年
松村 紅李

災害を「自分ごと」として捉えることが重要だと感じました。

●参加したきっかけは？

テレビや新聞で被災地のビルや住宅が崩壊し、多くの人たちの命が奪われたことを知り、被災者の方々のために自分ができることをしたいと思い、参加しました。

●どんな活動をした？

石川県珠洲市で炊き出しや足浴を行いました。現地でよく使われる調味料や食材で調理をすることで、食べ慣れた味で安心できるご飯を作りました。住民の方々は余震も続く中、辛い生活を送っているはずなのに、私たちを温かく迎え入れて下さったことがとても嬉しかったです。

●活動を通して感じたことは？

災害を「自分ごと」として捉えることが重要だと感じました。自分と周りの大切な人たちの命を守るためにも、災害への備えを万全にしておくことが必要です。食料や生活用品の備蓄は充分か、避難場所を把握しているかなどを確認するようになりました。

また、現地に居なくても被災地のためにできることがしたいと考え、IVUSA の募金活動に力を入れています。被災者の方々を想いながら活動し、復興に貢献できるように努めています。

私は IVUSA で、高校生の頃は想像もできなかったようなボランティア活動を行なっています。全国約 80 大学の 2500 人もの学生が、さまざまな社会問題を解決するために日々尽力しています。その活動の中で、統率力のある先輩方から多くの刺激を受け、たくさんの経験を積ませていただきました。新入生の皆さんも、前向きな好奇心でたくさんのことに挑戦してほしいと思います。

京都今出川クラブ３年
中田 遥貴

勇気を出して
現地に元気を届けに行こう。

●参加したきっかけは？

　私にはこの能登半島地震で被災した IVUSA に所属する友だちがおり、そういった被災された人たちの力に少しでもなりたいと思い、参加しました。

●どんな活動をした？

　珠洲市で、主に避難所での炊き出しや足湯をしたり、その他にも子どもたちと遊んだりしました。

●活動を通して感じたことは？

　家が潰れてしまった状況や道路の環境、水不足など生活に欠かせない問題に対して自分たちができることがあまりに少なすぎてかなり悔しい思いをしました。

　新しく IVUSA に入ったばかりの人にとって、災害救援活動に行くことは非常に緊張するし大変なことだと思いますが、現地にはたくさんの困っている人たちがいます。勇気を出して自分にできることを、現地に元気を届けに行きましょう。

草津クラブ２年

尾下 望

現地に行かなくても できることはたくさんある。

●参加したきっかけは？

　現地の人たちの力になりたいと思ったからです。地震によって、当たり前が当たり前ではなくなってしまった方たちが、少しでも早く元通りの生活を取り戻せるように、自分にできることをできる限りしたいと思いました。

●どんな活動をした？

　富山県氷見市で屋根から落ちて割れてしまった瓦や、倒壊したブロック塀の回収・運搬をしました。テレビで報道されている地震の被害が目の前に広がり、これが現実であることに大きな衝撃を受けました。

●活動を通して感じたことは？

　地域の方は温かい方たちばかりで、私たち学生を快く迎えてくれました。一緒にご飯を食べながら、自分たちのことやその地域の話などたくさんお話しさせていただいて、帰る時には「元気をもらった」と言っていただき、若者だからできることがあると気づくことができました。現地に行けば、誰にでもできることがあります。力仕事だけではなく、地域の方とお話しすることも、私たちに求められる大きなことだと感じました。

　しかし、現地に行かなくてもできることはたくさんあります。それは、能登に関心を持つことです。能登地震に関する情報を集めること、発信すること、募金活動。いろんな形があって良いと思います。能登の少しでも早い復興のために、現地の方のために、それぞれができることをそれぞれの場所でやっていきましょう。

現地の方の声

珠洲市狼煙地区区長

糸矢敏夫さん

炊き出しをしてもらったんですけど、油を使えないということで煮物が多いんですけど、我々お年寄り向けの味付けで最高でした！
みんな元気で礼儀正しいのはいいのだけど、もう少し砕けててもいいんじゃないですかね（笑）。
皆さんの活動に対して、僕たちができるのは前を向いていくことかなと思っています。